

# コロナ下の大型インフラ工事

～観光拠点がつながる2020年～

## はじめに

熊本地震から4年5ヵ月が経過した。熊本県内は震災からの復旧が進み、昨年9月には桜町再開発ビル「SAKURA MACHI Kumamoto」がオープンした。しかし、本年に入り、新型コロナウイルス感染拡大により消費は大きく変容し、低迷している。さらには令和2年7月豪雨が襲った。

このような中ではあるが、復興からさらなる飛躍へ向け複数の大型プロジェクトが進行している。そこで本稿では、観光拠点の「つながり」をもたらす道路や線路、つながりの先にある魅力的な観光地を形成するインフラ工事を中心として、県下で進行中のプロジェクトの現在を、写真を交えてレポートする。

## 1 交通インフラの整備状況

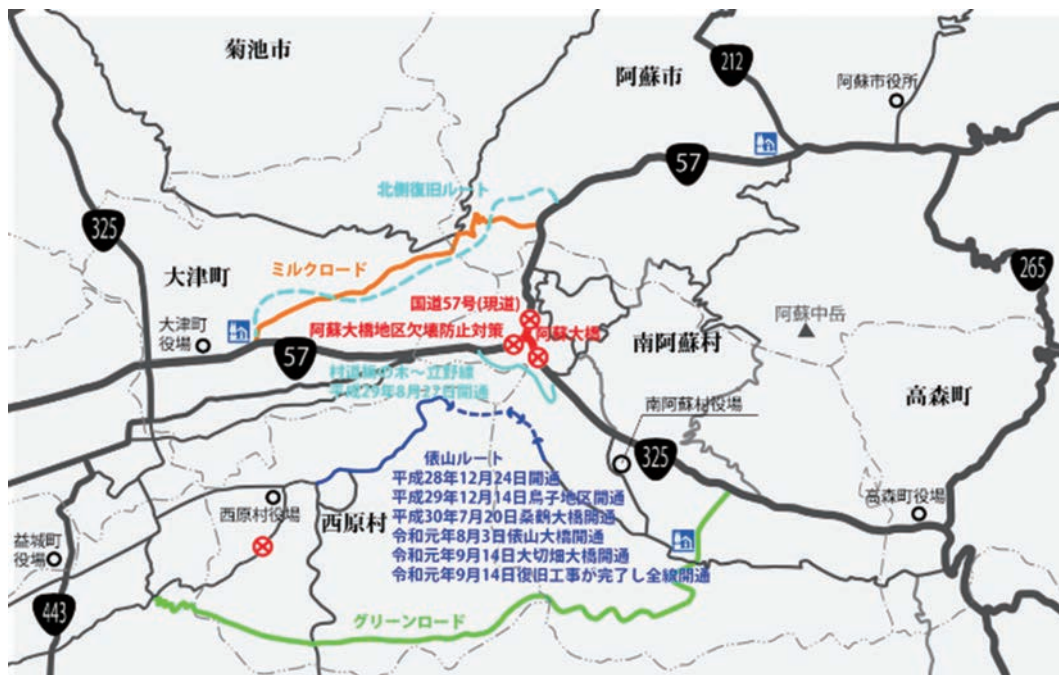
### (1) 阿蘇地域の要路

阿蘇地域と熊本都市圏をつなぐ国道は、震災被害から現在復旧が進んでおり、復旧時期の見通しが公表された。

#### ① 主要2幹線道路の開通

熊本地震による大規模土砂崩落で寸断されている国道57号線の北側復旧ルート（阿蘇市赤水—大津町引水間：約13km）は、2020年10月の開通を予定している。また、国道325号阿蘇大橋ルートでは、崩落した旧阿蘇大橋から約600m下流に架け替えられる新阿蘇大橋で、既に橋脚等の一部が完成し、2021年3月の開通を目指して工事が進んでいる。

阿蘇地域の復旧ルート



資料：九州地方整備局HP

建設中の新阿蘇大橋



写真：8/22 当研究所撮影

新阿蘇大橋の完成イメージ



資料：九州地方整備局HP

## ②生活基盤の回復と観光への期待

同じく震災被害から運行を休止していたJR豊肥本線の肥後大津駅—阿蘇駅間については、本年8月に運行が再開された。再開後、普通列車は震災前と同じ上下計30本を運行している。また、阿蘇地域の観光需要を見込み、観光列車「あそぼーい！」や九州横断特急も運行再開し、特急「あそ」も新設された。豊肥本線の全線開通に際して各種のイベントも開催され、盛り上がりを見せている。

これらの要路がつながり、アクセスが改善されることは、地域住民の生活再建に大きく貢献する。また、本年7月22日からスタートしたGo Toトラベルキャンペーン利用客の呼び込みに明るい材料となり、阿蘇の観光復活が加速することが期待される。

## (2)阿蘇くまもと空港

### ①新旅客ターミナルビル

阿蘇くまもと空港は、国内線・国際線共用の新旅客ターミナルビルの2023年の完成を目指す。現在、旧国内線ビルの解体工事や、新たな立体駐車場の建設工事が着手されている。その他、2024年度までに滑走路などの空港施設の修繕・更新を行い、計282億円を投資し、2051年度に622万人の旅客数を目標とするなど長期的な計画を明らかにしている。

阿蘇くまもと空港リニューアル後全体イメージ



資料：国土交通省

#### 2051年度目標

- 国際線17路線
- 旅客数622万人  
(うち国際線175万人)
- SKYTRAX※  
5スターを取得

※イギリスの航空業界の格付け会社。最高位である5スターの受賞は、日本では羽田空港、中部国際空港の2空港のみ(2020年)。

## ②空港アクセス鉄道

空港アクセス鉄道の整備については、三里木駅を起点駅とする案を基本として計画が検討されている。同ルートが実現すれば、熊本駅—空港駅間を39分で移動することができ、1日あたり7,500人の利用を見込んでいる。しかし、コロナ禍の影響で利用者数の減少が考えられることや、収益性を確保するために国から手厚い財政支援を受ける必要があるなど、課題が残されている。

空港アクセス鉄道路線図案



資料：熊本県HP

## ③周辺の開発

隣接する東海大学宇宙情報センターは、震災で被災した同大学農学部の新キャンパスとしても利用される予定となっている。

周辺の線路・路線の整備も相まり、熊本市内を結ぶ観光拠点となるため、早期実現が望まれる。

## (3)熊本駅（熊本駅ビル再開発）

### ① J R 熊本駅ビル

2019年に着工した熊本駅ビルは2021年3月末までの開業を目指している。同ビルは地上12階、地下1階、延床面積は10万9千㎡と、J R九州が所有するビルの中では、「J R博多シティ」（延床面積約20万㎡）に次ぐ規模となっている。テナントには、カジュアル衣料品店「ユニクロ」や、複合映画館「シネマコンプレックス」などの入居が発表されている。

熊本駅白川口の整備後のイメージ



資料：熊本市HP

### ② J R 熊本白川ビル

2020年12月に開業予定の熊本駅北ビルには、家電量販店「ビックカメラ」の入居が内定している。J R 熊本駅ビルと J R 熊本白川ビルの商業ゾーンの名称は「アミュプラザくまもと」とし、テナント数は190店程度にのぼる見通しとなっている。熊本駅の乗客数は1日あたり15,375人（2018年度）であり、桜町開発との相乗効果により、熊本都市部の発展に繋がることが期待される。

J R 熊本駅ビル



J R 熊本白川ビル



写真：共に8/22 当研究所撮影

## 2 熊本城

### ①復旧工事について

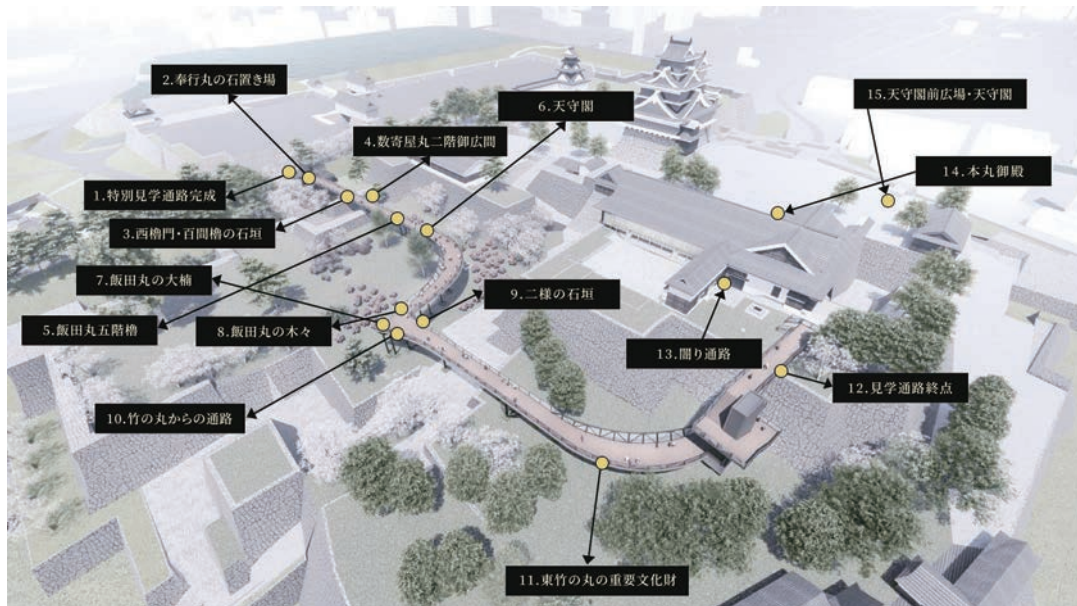
熊本市内の観光の拠点である熊本城は、着実に復旧が進んでいる。天守閣の再建工事で、石垣を含めた小天守全体の外観復旧と大小天守の展示工事が2021年に完了を予定している。工事完了後は天守閣の中に入ることが可能になる。また、本丸御殿大広間などの全体復旧は約17年後の2037年が目安となっている。

### ②特別公開について

新型コロナウイルスの影響により4月29日の公開予定から延期されていた特別見学通路が、6月より公開が始まっている。通路は備前堀の北側から本丸御殿の南側をつなぐ全長約350m。被災した石垣や復旧工事の様子や、国重要文化財の櫓群などを眺望できる。

全体復旧まではまだ期間を要するものの、熊本城は県内の復旧の「象徴」として県内外から多くの集客が見込まれる。

特別見学通路の見取り図



写真：本城総合事務所HP

復旧工事中の熊本城天守閣



特別見学通路から見た数寄屋丸



写真：共に8/22 当研究所撮影

# TOPIX

## 令和2年7月豪雨

令和2年7月豪雨は県南を中心に、広範囲に甚大な被害をもたらした。

同豪雨による県内の死者は65名、行方不明者2名。生活や産業にも甚大な被害を与え、公共土木被害額は1,452億円と、熊本地震（1,379億円）を上回る被害額となった。また、床上浸水などの住宅被害を受け、1,200人を超える被災者が避難所での生活を余儀なくされている。現在までに整備された仮設住宅は683戸。今後、約1,500~2,000戸の住まいの確保が必要になると想定されるため、仮設住宅の早急な整備が求められる。

交通網が寸断されたことにより生じた孤立集落は、道路の仮復旧や住民の避難により、現在では概ね解消されている。県は、応急対応から、復旧・復興へと段階を進めていくため、「球磨川流域復興局」を新設した。同局は復旧本部の運営を行うとともに、復旧・復興プランの策定、被災地の再生支援、球磨川流域の治水対策の検証等の業務に集中的に取り組む。

新型コロナウイルス感染拡大への懸念からボランティアの受け入れも限定されている中、今もなお復旧作業が懸命に行われている。

球磨川が氾濫した人吉市



写真：人吉市HP

球磨川流域図



資料：国土交通省ホームページ

判明している主な被害

被害場所	棟数・箇所	金額（億円）
住宅被害		
全壊	223	
半壊	383	
床上浸水	5,686	
床下浸水	2,257	
一部損壊	465	
土木被害	4,715	1,452
河川	2,060	326
砂防設備	364	76
急傾斜地崩壊防止施設	5	1
道路	2,183	537
橋梁	34	377
港湾	15	5
下水道	40	110
公園	14	19
鉄橋		
JR九州	730	
肥薩おれんじ鉄道	70	
くま川鉄道		15
農業	17,025	473
林業	4,008	430
水産	185	3
商工業（人吉市のみ）	990	279
	（床上浸水）	

資料：熊本県HPより当研究所作成

(8/20作成記事)

**3 その他のプロジェクト等**

プロジェクト名		事業費等 (億円)	完成予定	事業概要、課題など
<b>交通インフラ</b>				
公共交通機関等	熊本市電延伸	100~130	2026年度 (当初)	健軍町電停~新市民病院を結ぶ、東区の自衛隊ルート(約1.5km)について延伸を検討中であったが、新型コロナウイルスに関する市議会の対策会議で大西市長より事業中断の表明あり。検討の再開は新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いてからとされている。
	熊本環状道路			熊本西環状道路、熊本北バイパス、東バイパス等で構成される熊本市圏の環状道路。
自動車専用道路	熊本西環状道路			熊本市北区下碓川町~南区砂原町間の約12kmを結ぶ自動車専用道。整備区間(北区下碓川町~西区池上町間の約9km)のうち下碓川1C~花園1C間(約4.1km)は2017年3月に暫定2車線で開通済み。花園1C~池上1C間(約4.6km)は2025年度の開通を目指している。
	植木バイパス			植木町鞍掛~北区四方寄町の区間(約5.6km)が事業化。植木町鞍掛~植木町亀甲の区間(3.7km)については事業化は未定。
	熊本市内道路高架化			交通渋滞を緩和するため、連続する高架道路の整備を検討中。都市高速道路の設置も視野に。
	中九州横断道路	530		熊本市と大分市を結ぶ約120kmの地域高規格道路の一部となる大津熊本道路(約14km)の2020年度の事業化が決定した。事業化されたのは大津熊本道路のうち、合志市上庄~熊本市北区大鳥居町の9.1km区間。事業費は約530億円を見込み、完成時期は未定となっている。
	九州中央自動車道			嘉島町と宮崎県延岡市を結ぶ全長約95km。県内計画約44kmのうち嘉島JCT~山都中島西1C(約12.6km)は開通済み。山都中島西1C~矢部1C(約10.4km)で工事が進んでいる。矢部1C~県境間(約21km)においては事業化へ向けて評価が行われている。
	南九州西回り自動車道			芦北出水道路は芦北町と鹿児島県出水市を結ぶ約29.6kmの自動車専用道路。芦北1C~水保1C間(約13.3km)は2019年3月に開通済み。水保1C~県境間の8.5kmにおいて工事が進行中。開通時期については未定。
熊本天草幹線道路			熊本市と天草市を90分で結ぶ全長約70kmの幹線道路。県と国が共同で整備に取り組む。松島有料道路、松島有明道路については供用化済み。残る区間のうち、大矢野バイパス(約3km)と本渡道路(約1.3km)については県が、宇土道路(約7km)と熊本宇土道路(約4km)については国が整備を進めている。	
その他道路	県道熊本高森線4車線化	153	2026年3月	熊本地震で被災した益城町の中心部を通る県道熊本高森線を4車線化。拡幅区間は、東区桜木~益城町寺迫の約3.8km)。道幅は現在の10mから27mに広げる。着工時期2019年1月に着工済み、2026年3月までの完了を目指す。
<b>施設関係</b>				
市庁舎建替	熊本市役所本庁舎建替			熊本地震で耐震性に問題があるとされ、建替や移転が計画されていたが、検討作業が一時中断中。大西市長は新型コロナウイルスの感染拡大防止に集中するためであり、同対策が落ち着いた段階で検討を再開としている。
まちづくり	荒尾競馬場跡地スマートシティ			荒尾競馬場跡地である345,000㎡の土地に、ICTを取り入れたスマートシティの実現を目指す。2020年5月に荒尾市とNTTドコモ九州支社は同計画の実現に向けた連携協定を締結済み。
環境関連施設	菊池環境保全組合新環境工場新築	87	2021年4月	建設予定地は合志市幾久富地区の約190,000㎡(19ha)の敷地。ごみ処理施設(処理能力170t/日)と最終処分場(埋立容量約130,000㎡)、雨水調整池(40,000㎡)などを整備。2021年4月の稼働を目指す。
	宇城広域連合新ごみ処理施設新築	100超	2023年4月	宇土清掃センターと宇城クリーンセンターを統合して整備。建設地は宇城市クリーンセンターの敷地内グラウンド(約26,000㎡)で、処理能力は99t/日。2020年の着工、2023年4月の供用開始を目指す。
その他	旧東海大学阿蘇キャンパス			震災被害後の断層調査で今後のキャンパスとしての利用を断念。熊本地震震災ミュージアムの中核拠点として利用されることが決定している。
	(仮称)熊本市新市街ホテル・店舗複合開発プロジェクト		2022年4月	熊本市が進める「まちなか再生プロジェクト」において第一号案件となる「高さ基準の特例承認」を受け、高さ基準である海拔55mを超える地上12階のホテル・店舗複合施設(高さ46.65m、海拔59.95m)の開発事業を東急リパブルが受託。2020年7月末より本体工事に着工している。

資料：各市町村のホームページ等より当研究所作成